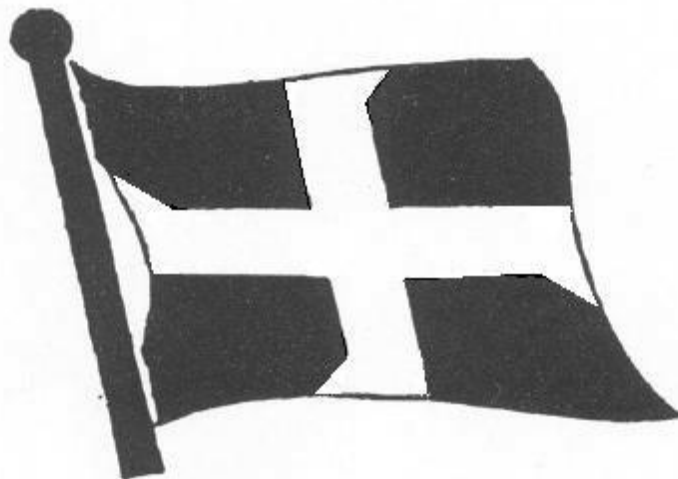


# 蒼穹 NEWS

## NO.7

### 東大戦総括号

令和5(2023)年 10月 11日発行



—目次—

- ①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶
- ②東大戦結果
- ③東大戦各競技総括
- ④その他ご報告

## ①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

### 《主将挨拶》

去る9月30日に東京大学駒場グラウンドで行われました第96回東京大学・京都大学対校陸上競技大会兼第22回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会において、京都大学は男子総合202点、女子総合42点を獲得し、総合優勝に輝きました。

試合展開としては、男子は東大にランキングを返され、劣勢に回る種目もありましたが、同時に行われていた種目や直後に行われていた種目で返されたランキングを奪い返し、事前に想定されていた以上の点差をつけて勝利することができました。一方で、女子はほとんどの種目でランキングを返されることなく、東大との点差を着実に広げて、実力を発揮することができました。シーズンも終盤に差し掛かり、慢性的な疲労を抱える選手も多く、その上、フィールド種目を中心に専門外の種目に挑戦する選手が多かった中で、選手とサポート、応援が一体となって掴み取った勝利であったと思います。

この東大戦をもちまして、齋藤・三好を中心とする4回生が率いる代は終わり、中川・平岡を中心とする3回生が率いる代が本格的に始動します。今回の勝利を自信にしつつ、慢心することなくさらなる躍進を目指して、今季の残りの対校戦及び来季に向けて精進を続けて参ります。

蒼穹会の皆様におかれましては、遠方での開催にも関わらず、当日は多くの方にご来場頂いてご声援賜りましたこと、大変嬉しく思います。また、この1年間、日頃から多大なるご支援・ご協力頂きまして誠にありがとうございます。今後とも変わらぬご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部主将 齋藤 啓

### 《女子主将挨拶》

先日行われた東大戦で、目標としていた男女総合優勝を達成することができました。男女共に、あらゆる場面で懸命な姿や成長、輝きを見せてくれました。

強くなり続けている女子チームも、非常に良い雰囲気練習や試合を重ねており、着実に総合力が付いてきていると感じます。今後が益々楽しみです。

今年の対校戦はどれも部員全員で本気で挑み、良い内容のものばかりでした。やっとの思いで、今回目標を達成することができ、有終の美を飾ることができました。頑張

る過程で得られる経験もたくさんありますが、やはり勝つことで得られるものも大きいはずです。今回得たものを今後の糧とし、どの部員もそれぞれの目標を達成して欲しいと思います。

この東大戦をもちまして、中川、平岡に代替わりをしました。まだまだ勢いのあるこのチームのさらなる活躍を楽しみにしています。

蒼穹会の皆様には、遠方にも関わらず多くの方にお越しくださり、誠にありがとうございました。今後とも変わらぬご声援のほどよろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 三好 紗椰

### 《監督挨拶》

去る9月30日に、駒場にて東大戦が行われました。チーム一丸となって挑み、見事に目標としていた男女総合優勝を勝ち取りました。

男女とも相手に隙を見せない戦いができたと思います。最初から最後まで気を緩めることなく事前ランキングを覆し続けたことが大差での勝利に繋がりました。この東大戦を経験しチームも個々人もさらに成長する姿を見ることができたように思います。

これからチームは中川(3)、平岡(3)の代へと移ります。自分たちの色を出しつつも、チーム全体の底上げをしてきてくれた4回生たちの思いを引き継ぎ、今後さらなる高みを目指して進み続けてほしいと思います。

当日現地に足を運んでいただいた方々を始め、蒼穹会の皆様方におかれましては平素より熱心に応援をいただき、大変感謝しております。引き続き目標を達成し好成績を残せるよう精進して参りますので、今後とも変わらぬご支援、ご声援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 仲村 快太

②東大戦結果

男子

種目	京都大学	東京大学
100m	1 2	9
200m	1 5	6
400m	1 2	9
800m	1 2	9
1500m	6	1 5
5000m	6	1 5
5000mW	1 5	6
110mH	1 0	1 1
400mH	1 5	6
4×100m	6	2
4×400m	6	2
棒高跳	1 2	9
走幅跳	1 5	6
走高跳	1 0	1 1
三段跳	1 4	7
砲丸投	7	1 4
ハンマー投	8	1 3
やり投	1 1	1 0
円盤投	1 0	1 1
総合得点	2 0 2	1 7 1

女子

種目	京都大学	東京大学
100m	7	3
400m	5	5
800m	7	3
3000m	7	3
4×100m	4	2
走幅跳	5	5
砲丸投	7	3
総合得点	4 2	2 4

### ③東大戦各競技総括

～短距離～

#### 男子100m

高田(3) 1着 10"88(-1.9)

山田(3) 2着 10"90(-1.9)

石原(2) 6着 11"29(-1.9)

男子100mには、高田(3)、山田(3)、石原(2)が出場した。資格記録では高田と山田が東大勢に先行する中で、点数の優勢を死守することが求められた。試合は-1.9mの強い向かい風の中で行われ、難しいレースであったが、高田と山田は順調に加速して東大勢を引き離し、ラストまで競り合いながら1着と2着でゴールした。石原は東大の4着、5着の選手と果敢に競ったものの僅かに遅れ、悔しいレースになった。(竹生)

#### 男子200m

高田(3) 1着 21"44(+0.6)

高橋(2) 2着 21"73(+0.6)

藤浦(4) 3着 22"19(+0.6)

男子200mには藤浦(4)、高田(3)、高橋(2)が出場した。3人共前半から好調に飛ばした。

高田は先日、京大記録を更新した勢いそのままに1着でフィニッシュした。

高橋は翌日に大きな大会が控えていたものの、安定感のある走りで2位となった。藤浦は3位、そしてPBを更新し4回生としてのチームを鼓舞する走りを見せた。この種目で京大はスコルクを達成し、総合優勝への勢いをつけた。(西川)



(今季好記録を連発し優勝を果たした高田)

#### 男子400m

岩本(3) 1着 48"98

益田(3) 2着 49"01

中川(1) 6着 50"73

号砲と共に飛び出したのは京大の岩本(3)と東大の松永(4)。バックストレートで大きく加速し、先頭争いになる。京大の益田(3)はその後を追う。中川雄(1)もそれに続く。第3コーナー回って残り200m。益田、中川両名が徐々に先頭との距離を詰める。いよいよホームストレート、ラスト100m。岩本、松永に益田が追いつき、3名での先頭争いとなる。残り50mというあたりで松永が遅れ、岩本益田の一騎打ちに。熾烈な先頭争いの末、勝ったのは岩本、1着でフィニッシュ。次いで益田がフィニッシュ、2着。中川はラスト100mで粘りきれず失速し、6着。各々悔しさが残る部分はあるものの、3名全員が駒場の敵地でPBを更新し、京大陣営を大いに勢いづけた。

(山口)

#### 男子4×100m

山田(3)-高田(3)-藤浦(4)-石原(2) 1着 41"05

男子4×100mR 決勝は山田(3)、高田

(3)、藤浦(4)、石原(2)のオーダーで臨んだ。事前予想で余裕を持って勝てると思われ、安定したバトンパスができ、全体的に冷静に走れた。昨年に比べて個々の実力も伸びており、4 継は 6 年ぶりの勝利となった。これからは全カレを経験している 3 回生 2 人を中心にさらなる成長、活躍に期待がかかる。

(平松)

#### 男子4×400m

益田(3)-藤浦(4)-青柳(2)-岩本(3) 1 着  
3'19"11

一走益田(3)が前半から仕掛ける展開となった。序盤東大と広げた差は、最後まで縮まらないまま、バトンは二走の藤浦(4)へ。

藤浦は 3 本目のレースながら力の差をしっかりと見せつけ、益田が作ったリードを守ったままバトンは三走の青柳(2)へと繋がれる。

青柳はアクシデントによる急な出場であったが、とても頼りになる走りをしてくれた。東大とのリードは変わらないままバトンはアンカーへ。

四走岩本(3)の走りは非常に落ち着いていて、見事なものだった。序盤、後ろの東大に差を詰められる展開であったが、勝負のために力を温存していた岩本は、最後は東大を突き離してのフィニッシュだった。

400m 及び 400mH で東大を圧倒した実力がそのままに出たレースだったと言えるだろう。(杉原)

#### 女子100m

三好(4) 1 着 12"74(-0.3)

齋藤(2) 2 着 13"18(-0.3)

女子 100m には、三好(4)と齋藤(2)が出場した。資格記録では東大の二人に大差をつ

けていた。レースは序盤から三好に続いて齋藤が飛び出し、大きく崩れることなく東大勢に圧勝した。向かい風の中、コンディションが良いとは言えない状況で、兩人ともに改心の走りではないものの、自分の役割を不足なく達成した試合であった。(竹生)

#### 女子400m

平岡(3) 1:00.88 2 着

中野(3) 1:03.36 3 着

女子 400m には中野(3)、平岡(3)が出場した。

中野(3)は序盤から積極的な走りを見せ、後半苦しくなるも 3 位を守りきった。

平岡(3)は東大の多田にリードされるも後半の 200m で粘りの走りを見せ、自身初ながら一着に迫る走りを見せた。(山本)

#### 女子4×100m

森尾(4)-齋藤(2)-中野(3)-三好(4) 1 着  
49"37

女子 4×100mR では三好(4)、森尾(4)、中野(3)、齋藤(2)が出場した。

1 走の森尾(4)は力強いスタートを切り、スムーズなバトンパスだった。

2 走の齋藤(2)は多種目出場の中だが疲れを見せない走りで、東大 2 走から徐々に差を広げバトンを繋いだ。

3 走の中野(3)も多種目出場だったが、東大に差をつめられることなく次に繋げた。

4 走の三好(4)は東大より前に出ていたが、さらに記録を狙い最後まで勝負強さを見せた。4 人のまとまったチームワークが大会新記録と勝利へ導いた。(藤本)



(渾身の走りでチームを引っ張ってきた三好)

～ハードル～

男子110mH

岩崎(4) 2着 15.02

五十嵐(3) 3着 15.41

杉本(2) 6着 17.16

岩崎(4)、五十嵐(3)、杉本(2)が出場し、岩崎2着、五十嵐3着、杉本6着でゴールした。

スタート後の機械トラブルにより時間を空けての再レースという非常に難しい展開でありながら、岩崎、五十嵐がPBを更新するなど再レースで改めて好パフォーマンスを発揮した事が素晴らしい。(千代田)

男子400mH

岩崎(4) 1着 53"07

青柳(2) 2着 54"60

金盛(3) 3着 55"83

男子400mHには、岩崎(4)、金盛(3)、青柳(2)が出場した。資格記録では三人とも東大の選手を上回っていたが、その差は圧倒的であるとは言えず、対校戦最初の種目として行われるレースで、京大の勢いを決定付けるためにも重要なレースであった。

岩崎は序盤から他選手を突き放し、今季に

打ち立てたPBに並ぶ記録で圧倒的な実力を見せ付けた。

青柳と金盛は終盤まで互いに競り合い、ラストの直線で青柳が金盛を引き離して2位でゴールした。金盛は終盤やや失速したものの、東大の選手に優位を保ってランキング3位の位置を死守した。(竹生)

～中距離～

男子800m

杉原(2) 1:54.74 2着

平山(3) 1:56.30 3着

阿部(1) 1:56.35 4着

男子800m決勝には平山(3)、杉原(2)、阿部(1)が出場した。

平山(3)は600mまで持ちタイムの速い東大北岸に迫り、ペースが落ちた後もなんとか東大の2番手や阿部(1)からは逃げ切って3着だった。

杉原(2)は集団の中で落ち着いて入り、ラストスパートを決めるクレバーな走りを見せ、2着でゴールした。

阿部(1)は後ろにびたりとついてきていた東大をラスト100mで引き剥がし、事前ランキングを返す4着でフィニッシュした。1着は逃したものの、3人がそれぞれの強みを活かした走りであった。(山本)



#### 男子1500m

小笹(3) 4着 4:11.07

柴折(1) 5着 4:17.58

小井(3) 6着 4:21.99

男子1500mには小笹、小井、柴折の3名が出場した。

レースは小井が引っ張る展開でスタートしたが中盤から持ちタイム1番の東大秋吉が抜け出し集団はばらけた。急なペースアップに3名はついていくことができず、また秋吉が抜け出した後、東大のその他2選手もスパートをかけスコンクを許してしまった。

小笹に関しては小井がペースを落とした後、前に出る積極性を見せたが練習通りの走りが十二分に発揮できたとは言えず、さらなる試合経験が必要となるだろう。

小井に関しては怪我や体調不良があり100%の状態ではなく悔しい走りとなった。この悔しさを丹後駅伝の選考及び本番にぶつけてほしいところである。

柴折はエース西川との正補交代で出場した。1回生で集団で勝負できたこと、競り負けた悔しさは今後の試金石となるので、この経験を今後につなげてほしい。(白星)

#### 女子800m

小倉(2) 1着 2'26"22

新保(3) 2着 2'34"11

女子800mには新保(3)、小倉(2)が出場した。

小倉はレース序盤から先頭に飛び出し他の選手に大きく差をつけて優勝した。優勝したものの後半400mが課題であったのであと少しの後半シーズン頑張ってもらいたい。

新保は直前での正補交代かつ複数種目出

場の中、ベストな走りで組2位でのゴールをした。このレースで京大は7点獲得した。

(大浦)

#### ～長距離・競歩～

#### 男子5000m

稲田(2) 4着 15:37.30

江端(4) 5着 15:43.34

三嶋(3) 6着 15:58.80

持ちタイムでは東大の秋吉が1人抜けており、京大の江端(4)、三嶋(3)、稲田(2)は東大の残り2人と集団を作りレースを進めた。最初の1000mは三嶋(3)が引っ張り良いペース。しかし次の1000mは大きくペースを落としたため稲田(2)が出てきて集団を引いた。3600mで東大2人が京大を引き離し4着稲田5着江端6着三嶋でレースを終えた。

稲田は序盤動きに余裕があり順位も記録も期待させる走りだった。今回の結果はUBだったが、15'10も遠くないはずである。

江端は調子が悪く終始レース展開に絡むことが出来なかった。

三嶋も連戦の影響もあってか2800mで離される苦しい展開だった。

3人ともどこかで一つ殻を破って一気に記録を出すはず。その時まで応援している。

(千代田)

#### 男子5000mW

原(4) 1着 22:14.52

土田(1) 2着 22:14.71

尾原(4) 3着 22:18.44

尾原(4)、原(4)、土田(1)の3名が出場。

序盤から3名とも東大勢に先行し、レースを引っ張る。中盤で少しペースダウンするも、終盤にまたラップタイムを上げ、終始東大勢を



リードし、尚且つ警告もなく、危なげない展開にてスコックを達成した。

尾原、原は七大戦に続き、自力の強さを見せた。土田も4回生2人に負けない堂々たる歩きによりPBを更新して2着に入り、今後を期待させる姿を見せた。(酒井)



(七大戦に続きスコックを達成した競歩)

#### 女子3000m

濱口(1) 1着 10'29"44

周藤(3) 2着 10'59"60

女子3000mには周藤(3)、濱口(1)が出場した。

濱口はスタートから飛び出し1人で安定したラップを刻み、単独走ながらUBを更新し1位となった。

周藤も終始単独走であったが、危なげない走りで2位、さらにPBを更新し10分台の大台に乗せた。2人ともが練習の成果を存分に発揮し、観客を大いに沸かせたレースであった。(西川)

#### ～跳躍～

##### 男子走幅跳

梶(4) 1位 6m94(+0.4)

齋藤(4) 2位 6m81(-0.5)

松本(3) 3位 6m48(-0.2)

男子走幅跳には、梶(4)、齋藤(4)、松本(3)が出場した。

梶(4)は6回中5回試技し、記録を着実に伸ばして6回目でSBタイを出した。

齋藤(4)は2回目に6m81の好記録を出し、その後も攻めた跳躍を見せた。

松本(3)は後半になるにつれ記録を伸ばし、勝負強さを見せた。最終的な順位ではスコックを達成した。(藤本)

##### 男子三段跳

梶(4) 1位 14m38 (-0.9)

齋藤(4) 2位 14m04 (+0.2)

中川(3) 4位 13m18 (0.0)

男子三段跳には梶(4)、齋藤(4)、中川(3)の三名が出場した。

梶は体調不良により3回パスしたが、1回目に記録した14m38で一等を勝ち取った。

齋藤はファールはあったものの、13m代の安定した記録を続け6回目に14m04を跳び二等となった。

中川は前半ファールが続いたが、後半は調整し4回目に13m18を記録して四等となった。(館)



(主将として最後の跳躍に挑む齋藤)

##### 男子走高跳

田中(2) 2位 1m90

鴛原(4) 4位 1m85

齋藤(4) 5位 1m70

男子走高跳には田中(2)、鴛原(4)、齋藤(4)が出場した。

田中は1m85から試技を開始し1本目で成功させた。1m90は2本目で成功させた。PBの1m95は惜しくも成功させることは出来ず2位で試技を終えた。

鴛原は1m70から試技を開始し、1m70と1m80は1本目で成功させた。1m85は3本目で成功させ4回生の意地を魅せたが、院試休み明けに加えて体調不良の影響で1m90は成功させることは出来ず4位で試技を終えた。

齋藤は1m60から試技を開始し1本目で成功させた。1m70は2本目で成功させた。PB、UBの1m75は惜しくも成功させることは出来ず5位で試技を終えた。結果、京大はこの跳躍で10点を獲得した。(大浦)

#### 男子棒高跳

吉富(2) 1位 4m00

深井(3) 2位 3m80

中川(3) 6位 2m60

男子棒高跳には中川(3)、深井(3)、吉富(2)が出場した。

中川は2m40から試技を開始し、2m40、2m60を1回で成功させたが、2m80を越えることができず、6位で競技を終えた。

深井は3m40から試技を開始し、自己ベストタイとなる3m80まで成功させた。自己ベストに挑んだ4mは惜しくも失敗し、2位で競技を終えた。

吉富は3m50から試技を開始。1回目を失敗し、その後の2回目では制限時間を巡って

審議があったが、無事に成功が認められた。その後は安定した跳躍を見せ、自己ベストタイとなる4mを2回目で成功させた。その後4m20に挑むも惜しくも失敗。1位で競技を終えた。(八木)

#### 女子走幅跳

齋藤(2) 2位 4m51

新保(3) 3位 4m49

女子走幅跳では新保(3)、齋藤(2)が出場した。

新保(3)は6回中5回安定した跳躍を見せ、最後の5回目に記録を伸ばした。

齋藤(2)は練習をあまり積み重なったものの、助走から勢いを見せ、2等の記録を残した。多種目出場の中、2等3等を獲得しチームに勢いをもたらした。(藤本)

#### ～投擲～

##### 男子砲丸投

大住(3) 3位 9m04

島村(4) 5位 7m41

金盛(3) 6位 7m35

男子砲丸投には、島村(4)、大住(3)、金盛(3)が出場した。大住は3投目でPBを超える8m94を投げ、その勢いのまま4投目では9m台を投げ、ランキングを守った。島村は初出場ながら1投目から7mに迫る記録を出し、5投目、6投目では7m台を出したものの、東大の3番手には及ばなかった。金盛は400mHの後にも関わらずPBまで後3cmと、今後に期待が持てる結果だった。(斎藤)

##### 男子ハンマー投

岡本(3) 2位 28m01  
川瀬(2) 5位 17m01  
木之下(4) 6位 16m85  
男子ハンマー投げには木之下(4)岡本(3)  
川瀬(2)が出場した。

木之下は試技を重ねるにつれ調子を上げたものの、惜しいファールが続き悔しさが残る結果となった。

岡本は前半苦しんだものの、最終投擲でしっかりと28mを投げ意地を見せた。

川瀬は初挑戦ながら堂々とした投擲を見せた。今後に期待である。(新庄)

#### 男子やり投

木下(1) 1位 48m80  
高田(3) 4位 38m92  
大住(3) 5位 38m53  
男子やり投には、大住(3)、高田(3)、木下(1)が出場した。

大住は1投目に好記録を出し、6投全ての投擲でしっかりと記録を残した。

高田は多種目出場の中、5投目で順位を上げる力強い投擲を見せた。

木下は1投目からトップに立ち、そのまま最終投擲で自己ベストを更新して優勝した。今後の50m超えに期待が持てる結果だった。

この競技では事前得点予想と同じ11点を獲得し、京大の総合優勝に貢献した。

(服部颯)

#### 男子円盤投

岡本(3) 2位 30m04  
五十嵐(3) 4位 22m83  
島村(4) 5位 22m16

男子円盤投には、島村(4)、五十嵐(3)、岡本(3)が出場した。

島村は自身初の円盤投であったが、3投目で22m16を投げ2点を獲得した。手首の痛みには不安はあったが、しっかりランキングを覆して2点を獲得した島村には、4回生の意地を感じた。

五十嵐は、2投目でPBをマークし好調であったが、さらに6投目で22m83とさらに記録を伸ばし、3点を獲得した。五十嵐は対校戦の度に円盤投に出場してくれており、毎回PBを更新している。専門種目の110mHではもちろん、来シーズンの五十嵐の投擲にも期待が高まる。

岡本は、3投目で30m04を投げて5点を獲得した。なかなか練習を詰めきれていないが、安定して30mを投げられるようになってきている。試合試技の中でも惜しい投擲があったことから、今後に大きく期待ができる。

(中芝)

#### 女子砲丸投

新保(3) 1位  
有村(1) 2位

女子砲丸投には新保(3)、有村(1)が出場した。

新保は多種目出場の中でしっかりと6本投げ切り、目標としていた10mには届かなかったものの最終投擲で9m08まで記録を伸ばした。更なる記録更新に期待したい。

有村は自身初の砲丸投で持ち前のパワーを発揮し、7m25を記録した。現在短距離選手への復帰途中であり、今後の活躍に期待が高まる。(小倉)

#### ④その他ご報告

この度は京都から遠い東京まで足をお運びいただき誠にありがとうございました。この東大戦を以て齋藤主将、三好女子主将を中心としたチームとしての対校戦は終わりになりますが、この先も京阪神、丹後駅伝と対校戦は続きますので OB.OG の皆様にぜひお越しいただきたい所存です。この度は誠にありがとうございました。最後にはなりますが、今回の東大戦にお越しいただいた OB.OG の皆様を以下に掲載させていただきます。尚、お越しいただいたにもかかわらずお名前がない方につきましては、この場を借りてお詫び申し上げます。

杉村一憲 S36	伊豆好弘 S56
宮島敏郎 S36	清水智志 S57
高林藤樹 S36	熊谷元 S59
佐藤松範 S37	山本貴弘 S59
富島紘一 S39	沢田和昌 S60
出納正彬 S40	彌永徳弘 S60
森本正幸 S41	月山敦詞 H2
藤原忠義 S41	原田卓 H3
鯉谷忠夫 S41	江中一稔 H3
吉田基 S42	杉田勝好 H3
丸山昌造 S42	置塩正剛 H6
芦田昭充 S42	松田好弘 H12
川尻和廣 S42	垣畑陽 H17
松嶋宏 S43	前田達郎 H21
神田光昭 S46	足立奏子 H29
松村正則 S46	櫻井茜 H29
沼野正義 S47	紀平直人 H29
間瀬一郎 S47	清水裕美子 R2
高木宣雄 S48	水野廉也 R2
中村茂夫 S48	三神惇志 R2
池本忠司 S49	三谷圭 R2
桂総一郎 S51	亀田孝太郎 R2
池田康博 S51	天野くるみ R2
増田剛志 S52	土屋維智彦 R2
津田幸二郎 S52	平島敬也 R2
柳沢一正 S52	小原幹太 R2
眞野勝文 S53	小原里桜 R2
三好稔彦 S54	潮崎羽 R2
重村充男 S54	澤田剛 R3

芦田開 R3  
中野水貴 R3  
長谷川隼 R3  
浅井良 R3  
西川真悠 R4  
鴨田佳奈 R4

高橋惇寿 R5  
石川結麻 R5  
中村郁仁 R5  
山田大智 R5  
今西直 R5



---

蒼穹ニュース 令和5年度 第7号  
令和 5年 10月 11日発行

---

発行所:京都大学体育会陸上競技部  
編集者:白星祥吾・田中颯真・平松藍(副務)  
特別協力:高山兼輔・阿部陽葵(学連員)  
写真担当:伊藤寿真・川瀬稔己・照山潤(写真係)

---

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>  
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>  
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>  
メールアドレス [shirahoshi.shougo.56f@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:shirahoshi.shougo.56f@st.kyoto-u.ac.jp)(白星)